

羽曳野市水道事業ビジョン等の検証結果について

令和3年度に、平成29年度から令和8年度までの10年間を計画期間として策定した「羽曳野市水道事業ビジョン等」について、中間年の5年目となることから、水道事業を取り巻く環境の変化や経営戦略の見直しの必要性、各種方策の進捗状況把握を行う、検証を行いました。

計画策定時には、予想もしていなかった新型コロナウイルス感染症による影響や給水量の動向や財政収支などについての検証を行い、今後の羽曳野市水道局の事業運営の方向性を確認しました。

検証結果については、次のとおりとなりました。

○現行のビジョンについては、令和8年まで継続

現在策定している水道事業ビジョンについては、概ね計画通りに進めており、特に大きな変更をすることなく、計画終了年度まで実施する。

○人口減少に伴う給水収益の見直し

給水人口は、予測値よりも実績値の方が減少幅が大きく、徐々に差が広がっていることから、人口減少等に伴う給水収益の見直しが必要である。

○管路工事布設単価の上昇

材料費や労務費の上昇、施工難易度の高い工事の増加などが、今後の管路更新の進捗や財政収支に影響を与える可能性がある。

○財政収支の見通し

給水収益や管路更新費用の見直しを考慮したうえで料金改定時期を現行ビジョンと同時期とするためには、起債比率や管路更新計画の見直しが必要である。

【まとめ】

現行の水道ビジョンについては、令和8年度まで計画どおりに実施していく。ただし、その間の水道を取りまく環境の変化の把握や、水道ビジョンの進捗状況の確認等は、継続的に実施する。

また、財政収支見通しの検証を行ったうえで、起債比率や料金改定、管路更新計画の見直しについても検討が必要である。

平成30年度から令和6年度までの第6次水道施設整備計画期間が終了する段階で、水道整備基本計画の見直しなどを実施し、次期水道事業ビジョン、経営戦略の策定に反映していく。

まとめを図にすると下記となります。

